

介護現場での勤務体験から

2025.11.18 栗山と福祉

話題提供者 北海道介護福祉学校 悪七 尚広



自己紹介①

- 名前 悪七 尚広 (あくしち たかひろ)
- 出身 北海道幌加内町
- 勤務先 北海道介護福祉学校 校長
- 専門領域 社会福祉、ソーシャルワーク、高齢者福祉など
- 主な資格 社会福祉学修士、社会福祉士、主任介護支援専門員、
相談援助実習指導者、中学校・高等学校教諭(社会)
介護教員研修終了、グループホーム第三者評価委員など
- 主な公職 社会福祉法人評議員、社会福祉法人等第三者委員、
介護保険認定審査会委員など

自己紹介②

- 特技 アルペンスキー
- 趣味 DIY
- 姓の由来

①平安時代の末期の

武将 藤原忠清の子である景清に由来

②悪七兵衛景清、藤原景清、伊藤景清、
上総七郎は同一人物（1196年没）

③平家物語に登場する

④京都清水寺には景清爪型観音

④九州には神社



歌川国芳画

『耀武八景 大寺晩鐘 悪七兵衛景清』

福祉の現場での仕事の前に…①

【学生時代の振り返り】

■ 中学時代

- ① 夏はソフトテニス、冬はアルペンスキーに明け暮れる
- ② 高校進学はアルペンスキーに没頭するために進学

■ 高校時代（1～2年夏まで）

- ① アルペンスキーの選手活動を行う。**1年の冬で進路確定**
- ② 高校での夏のトレーニングのために陸上部にも所属
- ③ 高校2年の夏休みの合宿中に骨折・靱帯損傷

福祉の現場での仕事の前に…②

【学生時代の振り返り】

■ 高校時代（2年秋～卒業まで）

- ① 高校2年の骨折・靱帯損傷以降リハビリのため選手活動に影響
- ② 高校3年には選手活動を再開するが成績はなし
- ③ 1年生の時に決まっていた大学の進路が消える
- ④ 自分の進路が決まらないまま卒業式を迎える
- ⑤ 卒業式後にある大学から勧誘



福祉の現場での仕事の前に…③

【学生時代の振り返り】

■ 大学時代（2年秋～卒業まで）

- ① 大学入学後、スキーマの選手としての活動を再開
- ② 学部はとりあえず社会福祉を選択
- ③ 大学3年の時、レース中に再度骨折と靱帯損傷
- ④ リハビリを行いながら、将来を考え始めた
- ⑤ 当時、社会福祉学部卒業では国家資格が無いことに気づいた
- ⑥ 卒業時、実業団から誘われるが断った

30年前に考えていたこと（根拠はないが）

- これからは高齢化が進む
- 高齢化が進めば少子化も進み、将来的に人口が減少
- PC (ICT) が様々な場面で使われるようになること
- ICT化できるものは仕事として減るが、ICT化できないものは仕事として残ること
- 変化する社会の中で、ニッチに目を向けること
- 世の中は変化すること、国際化が進むこと

現在は、少子高齢社会（縮小社会）が進展している

少子高齢社会とは

$$\boxed{\text{少子化}} + \boxed{\text{高齢化}} = \boxed{\text{少子
高齢社会}}$$

少子高齢社会（しょうしこうれいしゃかい）とは、
社会全体で、「少子化」と「高齢化」が同時に進行すること

- 少子化～子どもの数が少なく、全人口に占める割合が少ない
- 高齢化～高齢者の数が多く、全人口に占める割合が多い

大学卒業～就職・・・国家資格・学歴がない

昭和62年に大学を卒業して就職

■勤務先は、新十津川町職員

①町立の特別養護老人ホームのソーシャルワーカー

②卒業した年に国家資格制度が誕生

- ・社会福祉士及び介護福祉士法

③社会福祉学部卒の学生に共通していたこと

- ・学部の卒業だけでは、国家試験を受けない

- ・全員が必要単位の修得（最低2年）でようやく国家試験

- ・当時、国家試験の合格率は1弱程度

社会福祉士を取得して

平成7年度に社会福祉士に合格

→ ここから変わり始めた

■変わったことは

①仕事内容

②職場での役職

③仕事環境

④外部からの依頼

仕事の内容

特別養護老人ホームにおけるソーシャルワーカーの職務には変わらないが、

- 介護保険制度のモデル事業を担当（全国で2か所）
- 海外出張・研修（北欧4か国）
- 施設の新築・改築・新規事業の担当
- 原稿の執筆、各種会議等への参加などが出てくる
- 国家資格を有することでの自信と根拠づけができた

仕事の内容：番外編

- 大学・専門学校等での講義
- 大学・専門学校での非常勤講師
- 転職の誘い
- 研究活動の誘い

仕事環境（前半）

特別養護老人ホームにおけるソーシャルワーカーの職務には変わらないが仕事をする環境は変化した

- 個人用パーソナルコンピューターが3台支給された
- 海外出張・研修などに出やすくなった
- 新しい法律（5年後）のための仕事を担当
- 様々な企画立案の業務を担当するようになった
- 新たなネットワークで仕事するようになった

私の体験から①

仕事をする際の「資格」と「経験」は必要

- スタートラインに立つためには資格が必要
- 資格をどのように活かすかを考える

人の生活は時代・社会背景とともに変化する

福祉・介護の世界も進化・深化する

世の中が変化しても、
変わらないものがある

興味・関心を持たなければ、
よくわからない

福祉は様々な考え方・分野と関連

仕事内容・環境は変化しても基本は変わらない

ソーシャルワーカーとしての視点は、業務内容や環境が変化しても変わらない

■仕事をとおしての人との出会い

①施設で生活する人の支援

②その家族とのかかわり

③同僚・関係者とのかかわり

子どもやおとな…

高齢者であっても…
障害者であっても…

誰にでも、
**夢や希望はある
自分らしく生きたい**



奇跡のような出来事①

Fさん（女性：要介護4）

体調が悪化し病院に入院した。昏睡状態になり、あと数日がヤマであると医師から説明があった。昏睡状態であるため、家族や医療関係者が声をかけても返答はない。

その連絡を受けて病室を訪問した。Fさんが元気なところに話をしていた自分の心配事について、耳元で「大丈夫だから安心して」と言葉をかけた。

奇跡のように「頼むね」と一言喋り、また昏睡状態に陥った。約1週間後、体調が回復してきたと家族から連絡。

奇跡のような出来事②

Sさん（男性：要介護4）

総合病院の精神科に入院していた。認知症と診断され、生活意欲も低下していた。面会に来る家族のこともわかっていないようだった。

薬による治療で落ち着き、病院からはこれ以上の回復の見込みは無いとのことで、施設入所を勧められた。

その後、特別養護老人ホームに入居した・・・

奇跡のような出来事②



奇跡のような出来事②



奇跡のような出来事②



入所前



約8ヶ月後

奇跡のような出来事②



福祉や介護の仕事は人の人生を変える可能性

福祉や介護は、高齢者や障害のある人の生活を支える仕事である。かかわった人の人生が変わる可能性をもっている。

- ①安全で楽しく生活できるようにかかわる
- ②対象となる人が行為として自分でできること、判断として自分でできることが増えるように支える
- ③「〇〇したい」という気持ちを大切にする
- ④そのために人と関わり、話を聞くということ

直接的な介護の仕事はしていませんが・・・

日常生活が困難なお年寄りや体が不自由な人の暮らしのサポート



一人ひとりに
寄り添って笑顔
あふれる暮らしの
おてつだい。

入浴や食事、排せつの補助といった「身体介護」

調理や掃除などの「生活のサポート」

生活、身体、介護に関する「相談・助言・指導」

外出や地域活動などを提供する「社会支援活動」

介護福祉士はスペシャリスト

福祉や介護の仕事は、
「人がどのように『生きる』か」

をテーマにしている



一人一人が持つ感性と
多くの知識や技術が必要となる

私の体験から②

仕事をする際の「資格（知識・技術）」と「経験」と「コミュニケーション力」は必要

- 資格は活かすためにある
- 資格は常にブラッシュアップする必要がある
- 新たな知見や他の領域の動きを知る
- 同じ方向を向く仲間をつくる、協力する
- 仲間が増えれば、様々な助言がもらえる

仕事環境（後半）

最初に勤務していた職場からの退職

- 新たな職場からのお誘い（北竜町職員）
- 立場は特別養護老人ホームのソーシャルワーカーだが、業務内容は人材育成、新たな業務の企画・システム作り、介護業務にICTを取り入れる等を担当
- 大学院進学。仕事と研究活動を行う
- 職員や他の職場からの相談が増える
- 現在の**介護福祉学校職員**に転職

福祉とは何だろうか

- 誰もがしあわせに暮らすことができるためにあること

「福」とは、お金や物に困らない、**物理的な豊かさ**

「祉」とは、人々の**心の豊かさ**



福祉=Social well Being

社会の中でよりよく生きる

色々な人と共に幸せに生きる

どのように生きてほしいか



自分が将来どのように生きたいか

福祉は人の生活を創造する仕事



ライフクリエイター

福祉とは…

ふ つ う に

く ら す

し あ わ せ

栗高の皆さんへ：誰にでも訪れるチャンス

様々なチャンスは誰にでも訪れる。しかし。それに気づくか気づかないか、更にはその場面で力を発揮できるか否かはその人次第。だから、

- 自分の目標や目的を明確にしておく
- 日ごろからの準備を怠らない。特に生活習慣
- 目の前のことに取り組み、少し先を俯瞰する
- 関連する領域や他の領域のことを考えてみる
- 他者の話を聞く などが大切と思う

目標と目的を明確にしてみよう

最初の第一歩は…

進路(将来)目標の明確化



自分の『生き方』を考えてみることに



人生設計を
思い描くこと

「何のために生まれて、
何をして生きるか」

やなせ たかし

「勤労観・職業観の形成」にとどまらず、
「社会的・職業的自立のために必要な自己の確立」
を目指す！